

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第14週（3月30日～4月5日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 非流行期に」

第14週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は756例であり、前週比13.7%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、流行性角結膜炎、RSウイルス感染症、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.65、1.16、0.27、0.17、0.17、0.17であった。

感染性胃腸炎は前週比17%減の326例で、中河内3.15、大阪市西部2.44、南河内2.31、大阪市南部2.11、泉州1.85である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比10%減の228例で、泉州2.05、大阪市南部1.78、大阪市北部1.71であった。流行性角結膜炎は前週比36%減の9例で、大阪市西部0.50、堺市・中河内0.40である。

RSウイルス感染症は前週比22%増の33例で、大阪市東部0.40、北河内0.26、南河内0.25であった。

水痘は前週比13%減の33例で、三島0.29、大阪市東部0.27、大阪市西部0.22である。

インフルエンザは41%減の92例で、定点あたり報告数は0.31であった。南河内0.96、大阪市西部0.50、泉州0.42、北河内0.36、中河内0.30である。流行期の目安となる定点当たり1.00を2週続けて下回り、非流行期入りした。

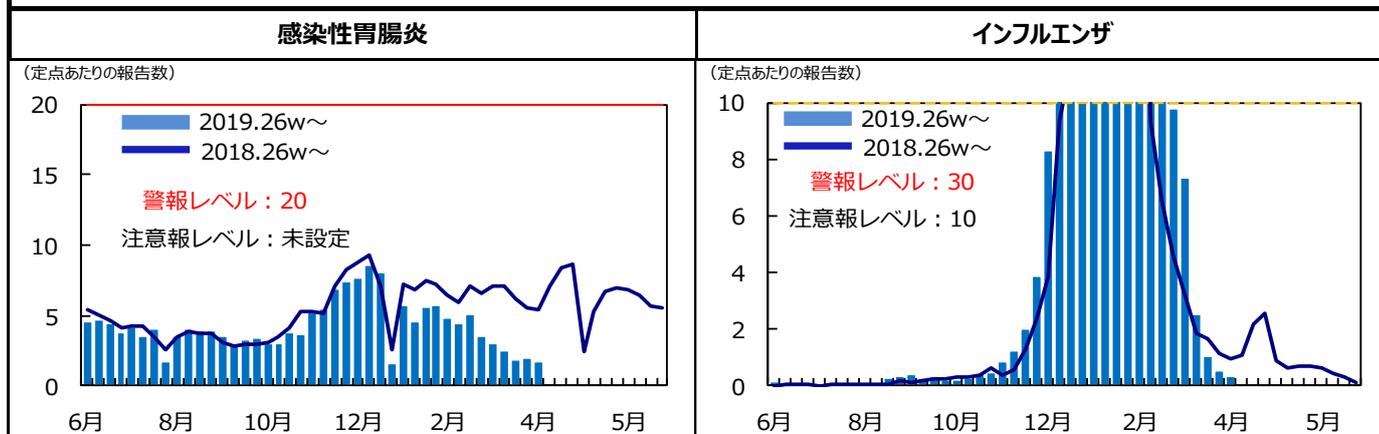


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第14週3月30日～4月5日）

第14週の順位	第13週の順位	感染症	2020年 第14週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第14週の 定点あたり 報告数	2020年第14週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	1.65	17%減	5.33	20歳以上_19%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.16	10%減	1.85	5歳_19%
3	3	突発性発しん	0.27	24%減	0.39	1歳_48%
4	4	流行性角結膜炎	0.17	36%減	0.37	20歳以上_89%
4	7	RSウイルス感染症	0.17	22%増	1.01	1歳未満_30%
4	5	水痘	0.17	13%減	0.29	6歳_18%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.31	41%減	0.94	20歳以上_23%

第14週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防（手洗いや咳エチケットなど）の徹底を

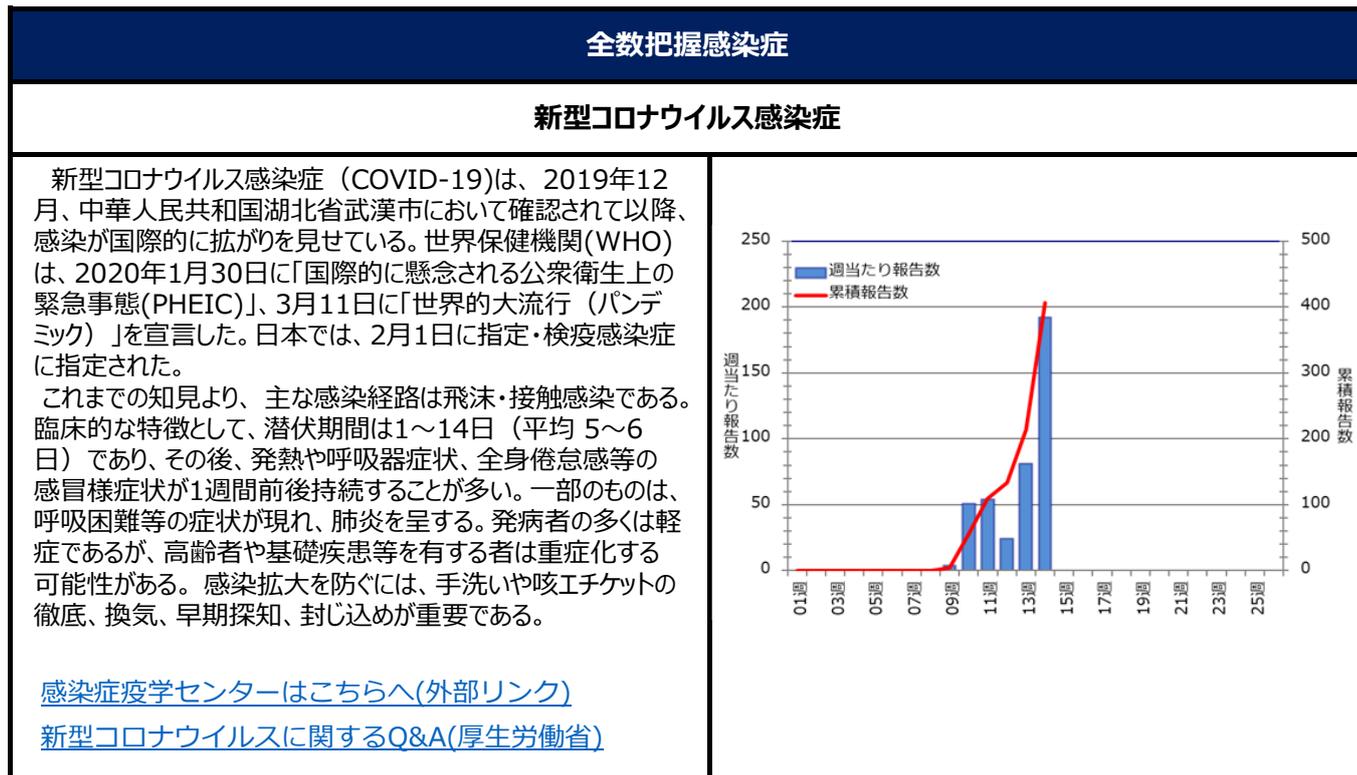


表2. 大阪府全数報告数（2020年 第14週3月30日～4月5日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。
 新型コロナウイルス感染症は、指定感染症として定める政令が施行された2月1日以降の集計です。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	1								12
4類感染症	A型肝炎	1	1								3
	レジオネラ症（肺炎型）	1								1	26
	レジオネラ症（無症状病原体保有者）	1								1	
5類感染症	アメーバ赤痢	1			1						15
	後天性免疫不全症候群	1								1	31
	梅毒	4			1				1	2	252
	百日咳	3		1			2				78
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	192									406
結核 (2020年2月分)	結核 新登録患者数：124名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 44名) (府内累積報告数 264名、内 肺・喀痰塗抹陽性 93名)										

(2020年4月7日 集計分)